

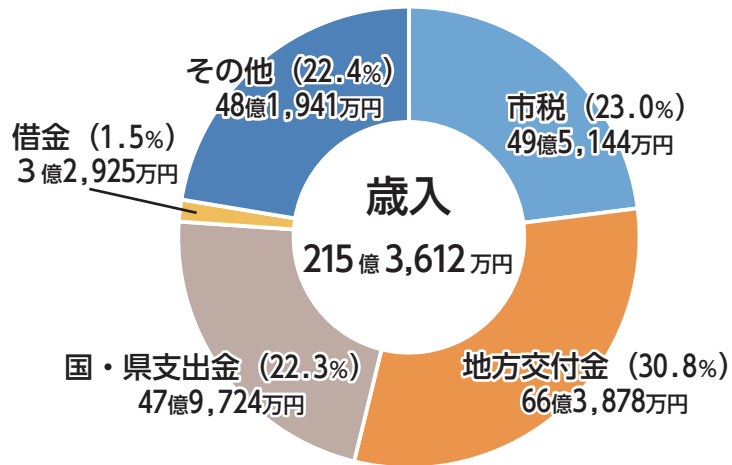
令和4年度 決算を報告します



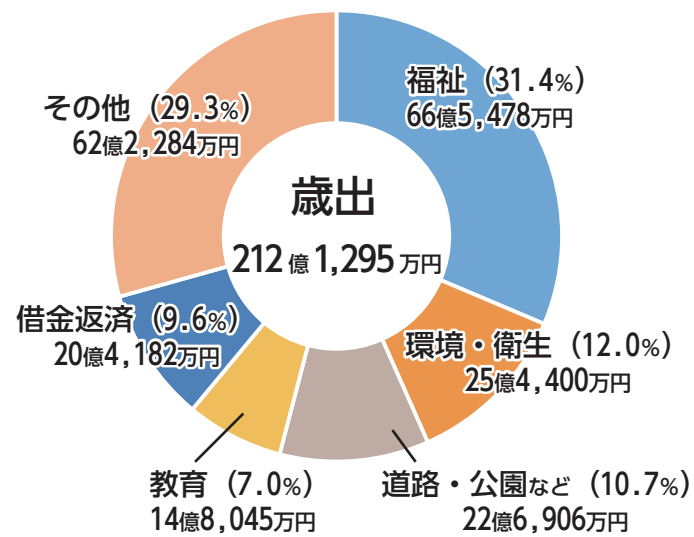
西脇市の令和4年度決算がまとまりましたので、一般会計、特別会計、企業会計の状況についてお知らせします。また、基金や市債の残高、健全化判断比率についても公表します。

▶問合せ 財政課（市役所内線3015）

一般会計歳入



一般会計歳出



収支のバランス

令和4年度一般会計では、歳入総額が215億3,612万円、歳出総額が212億1,295万円で、令和5年度へ繰り越すべき財源の1,982万円を差し引き、3億335万円の黒字となりました。

また、特別会計と企業会計の決算概要は次のとおりです。両会計は特定の事業を行うために、一般会計とは分けて設置されるものです。



◆会計別決算

会計	歳入	歳出	差し引き	
一般会計	215億3,612万円	212億1,295万円	3億2,317万円	
特別会計	国民健康保険	43億7,433万円	42億2,960万円	1億4,473万円
	学校給食センター	3億811万円	3億811万円	0円
	老人保健施設	4億9,456万円	4億9,456万円	0円
	公営墓地	441万円	441万円	0円
	介護保険	48億8,428万円	47億3,340万円	1億5,088万円
	茜が丘宅地供給事業	1,809万円	1,809万円	0円
	後期高齢者医療	6億7,101万円	6億5,277万円	1,824万円
	太陽光発電事業	6,760万円	6,760万円	0円
企業会計	水道事業	10億9,338万円	10億8,663万円	675万円
	下水道事業	18億3,275万円	18億3,262万円	13万円
	病院事業	88億1,954万円	88億6,558万円	△4,604万円

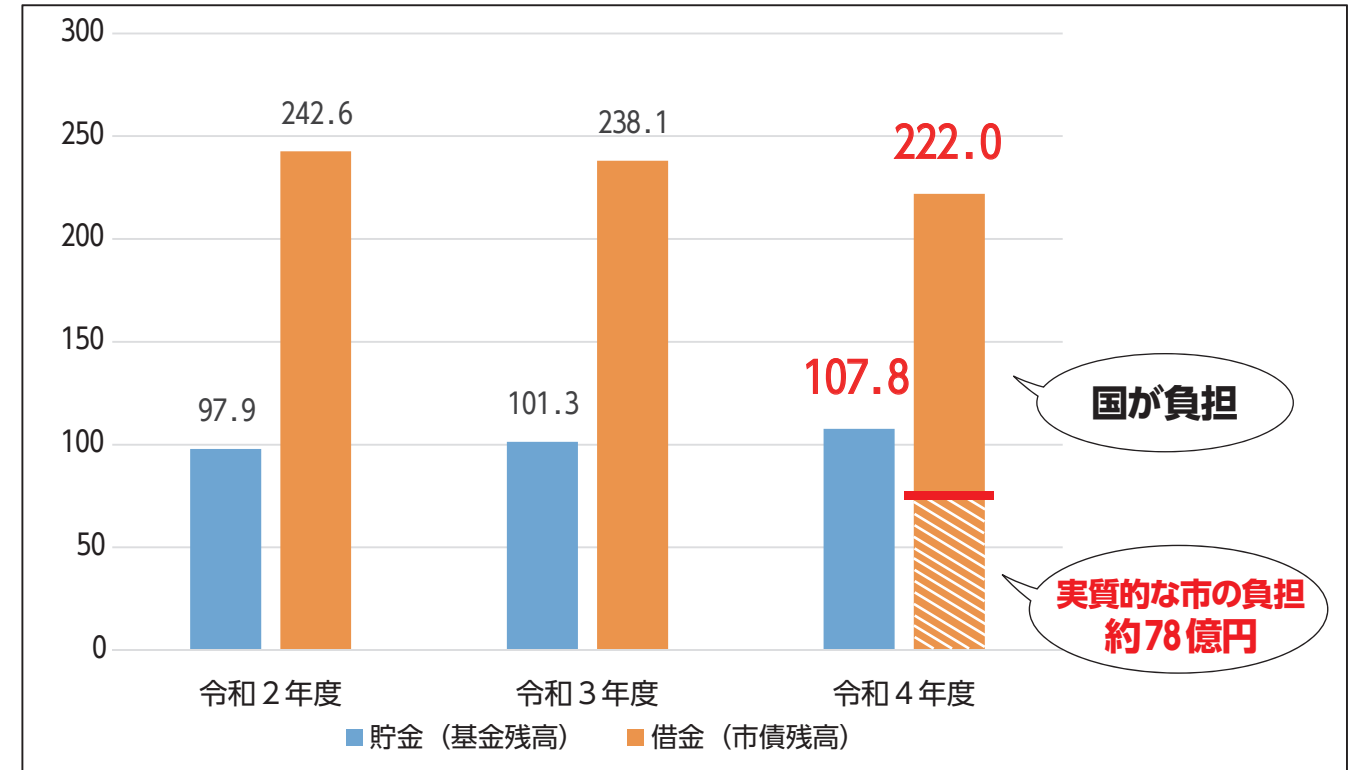
貯金と借金

令和4年度末の一般会計ベースの貯金（基金残高）は107億7,832万円となり、昨年度と比べて6億5,284万円増加しました。一方、借金（市債残高）は222億196万円となり、16億820万円減少しました。借金のうち、合併特例債および緊急防災・減災事業債の70%、臨時財政対策債の100%などが交付税措置されますので、**実質的な市の負担額は約78億円**となります。

なお、特別会計、企業会計を加えた市全体の貯金は117億9,698万円、借金は434億6,759万円です。



◆基金残高と市債残高（一般会計ベース／単位：億円）



財政状況

自治体の財政状況を示す「健全化判断比率」では、「健全段階」、「早期健全化段階」、「財政再生段階」の3段階に区分されます。

西脇市は令和4年度決算において、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率のいずれの指標も、国が定める基準を下回り、前年度に引き続き「健全段階」となっています。

西脇市は**健全財政を維持**しています。



◆健全化判断比率

項目	令和4年度決算	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	13.07%	20.00%
連結実質赤字比率	—	18.07%	30.00%
実質公債費比率	9.4%	25.00%	35.00%
将来負担比率	2.9%	350.00%	—

比率がマイナスになる場合、「—」で表記しています。

【指標の説明】

実質赤字比率…市の会計などの赤字の程度を指標化し、財政運営の深刻度を示すもの。

連結実質赤字比率…全ての会計を合算し、市全体の赤字の程度を示すもの。

実質公債費比率…財政負担を見るために、借金の返済の大きさを指標化したもの。

将来負担比率…将来の負担を見るために、借金や今後支払いが見込まれる負債分を指標化したもの。